



酒好きな長持の酒宴

酒飯論絵巻 第二段(部分) 文化庁蔵



飯も茶も好む好飯は山盛りの飯でもてなす

酒飯論絵巻 第三段(部分) 文化庁蔵



ほどほどを良しとする仲成は適度な量の酒と飯を出す
酒飯論絵巻 第四段(部分) 文化庁蔵



吉野絵懐石道具のうち四つ椀

酒飯論絵巻は、酒が好きな「造酒正糟屋朝臣長持」、飯と茶を好む「飯室律師好飯」、酒も飯もほどほどを良しとする「中左衛門大夫中原仲成」という3人が言葉をつくして「酒」と「飯」について「論」じ合う物語に、3人がそれぞれで馳走をふるまう絵がつけられたものです。

室町時代に成立し、楽しそうに飲食する姿や調理場面が生き生きと描かれたこの絵巻は、江戸時代を通して多くの写本が作られました。同時に、中世の風習を知るための好資料として認識され、最近では、日本の食文化を知る上で欠かせない絵画資料として注目を集めています。しかしながら、酒飯論絵巻が一体どんな物語で、どういった場面を描いたものなのかは意外に知られていません。

酒飯論絵巻が生まれた中世は、ちょうど喫茶が流行のきざしを見せる時代です。現在、茶事では「茶」だけでなく、「飯」や「酒」も重要な役割を果たしています。酒飯論絵巻における饗宴の描写と現在行われている茶事には共通する部分も多く、茶事は中世の饗宴から影響を受けて発展したものと考えられます。

本展は酒飯論絵巻をテーマとした初の展覧会で、国内に所蔵される酒飯論絵巻のうち8点を一堂に集め、全場面をわかりやすく解説します。あわせて酒飯論絵巻にみられる酒器などを展示し、中世日本の宴の世界を味わっていただきながら、茶事との関わりについてもご覧いただけます。

〈出品予定の酒飯論絵巻〉

文化庁本、三時知恩寺本、静嘉堂文庫美術館本、群馬県立歴史博物館本、茶道資料館本、ほか

〈主な出品作品〉

- ・蓬莱文長柄銚子 桃山時代 曼殊院蔵
- ・巖波文盃 江戸時代
- ・『酒茶論』室町時代 今日庵文庫蔵

※期間中、展示替えおよび場面替えを行います。

茶の描写

実は、飯好きの僧侶「好飯」は茶も好んだようで、茶会は酒盛りよりも面白いと述べ、好飯の屋敷では茶白を挽き、湯を沸かして茶を準備する人物が描かれます。

茶の準備をする僧侶



酒飯論絵巻(部分) 文化庁蔵

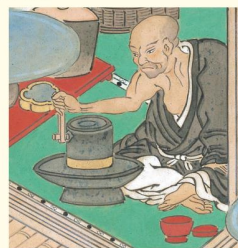
見どころ

文化庁本(A)と茶道資料館本(B)は、同じように見えますが、細部に注目してみると、茶道資料館本では、茶を掃き集める羽箒と、赤い容器の中にあるはずの抹茶が消えてしまっています。同じ「酒飯論絵巻」でも、少しずつ写し崩れが生じ、その結果、各写本に個性が生まれ、見どころの一つとなっています。

茶を挽く僧侶



A 文化庁本



B 茶道資料館本

会期中のイベント

【日時】11月22日(木) 13:30～

- 担当学芸員による「酒飯論絵巻」解説(約30分)
- 講演会「利休時代の懐石と菓子」

講師:筒井紘一(当館顧問)(約90分)

※参加者には本展に関連する特別菓子にて呈茶いたします。

【申込方法】往復はがきに郵便番号・住所・参加者氏名・電話番号を1名につき1枚ずつ記入し、茶道資料館「秋季特別展イベント」係までご送付ください。

【聴講料】1000円(別途要入館料) 【定員】先着80名

【申込受付期間】9月7日(金)～11月7日(水) ※当日消印有効

茶道資料館メンバーシップ校(加盟順)

京都造形芸術大学、立命館、光華女子学園、京都学園、京都大学、京都工芸繊維大学、同志社、京都教育大学、平安女学院、京都文教学園、花園学園、京都精華大学、京都府立医科大学、京都府立大学、京都外国語大学、京都産業大学 平成30年4月現在

第11回茶道文化検定 平成30年11月11日実施



交通案内

- 市バス**
- JR京都駅より⑨
 - 阪急大宮駅→四条堀川より⑨⑫
 - いずれも堀川寺ノ内下車、徒歩3分
 - 京阪出町柳駅より⑩⑪、堀川今出川下車
 - 堀川通東側を北へ徒歩10分
- 地下鉄**
- 烏丸線鞍馬口駅下車、西へ徒歩15分
 - 東西線二条城前駅より市バス⑨⑫
 - 堀川寺ノ内下車、徒歩3分

茶道資料館 Chado Research Center